

国際シンポジウム

「世界の鉄鋼首脳—社会に貢献する鉄鋼技術の未来を語る」開催報告

ISIJ90 国際シンポジウム実行委員会

1 はじめに

「世界の鉄鋼首脳—社会に貢献する鉄鋼技術の未来を語る」と題して、2005年3月28日に経団連会館国際会議場で、世界の鉄鋼技術首脳を集めた90周年記念「ISIJ90国際シンポジウム」を開催いたしました。当日の参加者は200名を越え、大変盛況なシンポジウムとなりました。

ISIJ90国際シンポジウムまでの準備と当日の講演・パネル討議の内容などについて実行委員会から報告させていただきます。

2 ISIJ90 国際シンポジウム 実行委員会発足までの経過

国際シンポジウムについては、海外および国内主要メーカーの技術系トップを集めて、経営戦略とも関連づけた技術開発戦略に関する講演およびパネル討議を行うことが90周年記念事業企画委員会から提案され、同年5月に開催された第2回委員会で、国際シンポジウムを90周年事業の目玉として独立して実施することとし、2005年春季講演大会の前日に開催することを決めました。また、委員会に国際シンポジウムWGを設置し、事業計画を作成した後、生産技術部門に実行を依頼しました。

生産技術部門では、2003年11月に開催された生産技術部門会議にて、同委員会で検討された国際シンポジウム案について議論し、内容をブラッシュアップすることを前提に今後の企画・実行を引き受けることになり、生産技術部門長（委員長）、理事企業7社から選出された委員からなる「ISIJ90国際シンポジウム実行委員会」を発足させました。同実行委員会は1年半の間に10回開催され、企画から実行までを推進しました。

3 ISIJ90 国際シンポジウムの 開催主意と期待した効果

世界を代表する鉄鋼会社技術首脳による講演およびパネル討議を通じて、今後の鉄鋼業が直面するであろう技術環境変化を相互に理解し、製品技術や環境対策技術分野に於ける競争と協調の基本的な関係を確認し、国際的な協調関係における日本鉄鋼協会の役割（学術と技術の結合、産官学の結合、国内と海外の結合、など）を認識することを狙いとししました。

基調は、鉄鋼需要の拡大と技術的な進歩・発展の展望に依拠するポジティブで明るく元気の良い鉄鋼業が存在し、適切な利益を得ながら社会への貢献を積極的に進めてゆくこと、としました。この量的拡大は中国に代表される成長地域にあり、技術の担保と発展は日欧の鉄鋼業によって牽引されます。双方の理解を進め、より高い技術が鉄鋼業による社会貢献にとって必要であることを確認し、効率的・効果的に技術力を高める為には如何なる方策が必要となるか、について技術運営を担う幹部による忌憚のない意見交換が実現できる場を提供することを大きな狙いとししました。

具体的には、中長期的展望において、それぞれの鉄鋼業が直面するであろう変化・条件・制約の中での技術課題、商品技術、環境対策技術、原料・鉄源技術、技術開発を支えるR&Dインフラなどについて、実行委員会で議論して具体的に講演者に依頼しました。

このような内容の国際シンポジウムを開催することによって、技術的に裏付けされたポジティブな鉄鋼業の展望を明らかにすることは、業界のプレゼンスを社会的に高めることに繋がると考えました。また、鉄鋼業に携わる当事者にとっては、視野の拡大とポジティブマインドの高揚に繋げることが期待でき、更に日本の鉄鋼業界が果たすべき役割の重要性が国際的に再認識され、加えて東アジア地域等での技術協調に

関する協議の端緒になり得る機会としても期待できると考えました。

4 ISIJ90 国際シンポジウムの 当日の概況

(1) まず、澤田靖士会長代理・生産技術部門長から

「日本鉄鋼協会が設立された1915年当時の日本の粗鋼生産量は51万トンでしたが、戦後、驚異的な発展をとげ、それに鉄鋼協会は多大な貢献をしてきたことは間違いありません。90周年を記念して、欧州、アジアの鉄鋼首脳に集まっていただき、鉄鋼業の未来を考えるシンポジウムを企画いたしました。昨年は、世界の鉄鋼業の業績は目を見張るべきものがありました。一方、鉄鋼業を取り巻く環境を見てみますと、多くの課題があります。中国を中心とした東アジアにおける爆発的と言ってもいい鉄鋼需要の増大、そしてこれから益々厳しくなるであろう環境問題などです。鉄鋼業のグローバル化も一層進むものと思われます。このような問題に対してどのように考えるか、どのように対処していくかは非常に重要な課題であります。

このシンポジウムに世界をリードする会社から参加していただきました。欧州からはアルセロールとティッセンクルップ、アジアからはPOSCOと宝鋼、JFEスチール、新日本製鐵です。6人の技術首脳の方々に参加していただいた本シンポジウムは講演とパネル討議の二部構成で進めさせていただきます。講演者の方々から、鉄鋼商品技術や原料、鉄源問題、環境技術などに重点を置いた具体的な事例の取り組みをご紹介いただけるものと思います。我々にとりましても、示唆に富んだお話が伺えるものと期待しております。ただ、日本において残念に思うことが一つあります。それは、我が国においてはナノテクとかバイオなどの分野に社会全体の目が行く傾向にあり、材料に目が行っていないことです。このシンポジウムが、日本における鉄鋼業の重要性が改めて見直されるきっかけになればと願っております。」との開会挨拶がありました(写真1)。

(2) その後、影近氏(JFE)、Imlau氏(ティッセンクルップ)、Mudry氏(アルセロール)、Hur氏(POSCO)、Xu氏(宝鋼)、奥村氏(新日鐵)の技術首脳による講演(司会:飯村理事(住金))と、大西副部門長(神鋼)に座長を務めてい



写真1 澤田会長代理・生産技術部門長の挨拶

ただいたパネル討議が行われました。シンポジウムには来賓として、前会長の京大・牧教授、前副会長の北大・石井教授および交通安全環境研の大橋理事長にご出席いただきました。そのプログラムを表1に、当日の参加者数を表2にまとめました。当初計画の参加者数を上回る盛況でありました。本シンポジウムは、今後の世界の鉄鋼技術・鉄鋼業のあるべき姿、その発展がどのように人類・社会に貢献することになるか、これを実現するためにはどのような技術力を高めてゆかねばならないかなど、各講師から各々の視点からのプレゼンテーションがあり、有意義な内容であったと思います。シンポジウムの最後には、浅井90周年記念事業企画委員会委員長から「国内・国際シンポジウムは大成功だったと思います。6人の世界の技術のトップの方々に参加していただいたことに感謝いたします。将来は、鉄鋼協会の場に経営の方にも参加していただいて議論することが多くなると思います。それからパネル討議の最後に「鉄鋼協会に何を期待するか?」の質問に答えていただいたのも大変良かったです。鉄鋼協会は2015年に100周年を迎えます。鉄鋼協会としては、今日指摘された期待を真摯に受け止めて、今後の活動に活かしていきたいと思います。」の閉会挨拶がありました。シンポジウム終了後には内仲専務理事の司会で懇親パーティが開かれ、経産省・小澤室長および物材機構・岸理事長の来賓挨拶、牧教授の乾杯の後、参加者による懇親を深めることができました。

全ての講演とパネル討議の詳細は次々ページ以降で報告いたします。

表1 ISIJ90国際シンポジウムのプログラム（2005年3月28日開催）

13:30～13:40	開会挨拶 澤田靖士 会長代理・生産技術部門長（新日本製鐵(株)代表取締役副社長）
13:40～13:45	趣旨・構成の説明 飯村 修 理事（住友金属工業(株)常務執行役員）
13:45～14:10	講演 1 社会に貢献する鉄鋼技術の現状と未来 Current Status and Future Outlook of Steel Technologies Contributing to Society 影近 博氏 J F E スチール(株)常務執行役員スチール研究所長
14:10～14:35	講演 2 リスクを最小にする製品開発の新戦略－新しい鉄鋼技術に関するケーススタディー New strategies for risk minimized product developments -A case study regarding new steel technologies- Klaus-Peter Imlau 氏 ThyssenKrupp Stahl AG Senior Vice President
14:35～15:00	講演 3 急速に変化する世界における鉄鋼技術：協力及び競争 Steelmaking technology in a rapidly changing world: cooperation and competition François Mudry 氏 Arcelor Scientific Director
15:00～15:10	休憩
15:10～15:35	講演 4 鉄鋼業における持続的成長 The Sustainable Growth in Steel Industry Nam-Suk Hur 氏 POSCO Senior Vice President
15:35～16:00	講演 5 資源、環境、技術：鉄鋼業の持続可能な発展における競争要因 Resource, Environment, Technology: Key Competition Factors of Sustainable Development in Steel Industry Xu Lejiang 氏 Shanghai Baosteel Group Corp. Director, President
16:00～16:25	講演 6 社会の持続的発展に向けた鉄鋼技術開発 Technical Development of Steel for Sustainable Development of Society 奥村直樹氏 新日本製鐵(株)常務取締役鉄鋼研究所長
16:25～16:45	コーヒーブレイク
16:45～17:35	パネル討議 Panel Discussion 座長 大西功一 生産技術部門副部門長（(株)神戸製鋼所 常務執行役員） パネリスト 講演者（6名）
17:35～17:40	記念品贈呈 澤田靖士
17:40～17:45	閉会挨拶 浅井滋生 90周年記念事業企画委員会委員長 （名古屋大学 大学院工学研究科材料プロセス工学専攻 教授）
18:00～20:00	懇親パーティ

表2 参加者数の計画と実績

	計 画	実 績		
		一般参加者数	来賓・関係者等	合計
国際シンポジウム	200名	210名	38名	248名
懇親パーティ	100名	101名	35名	136名